追悼

一歩先に旅立った畏友へ

――亡き山田茂君を偲んで

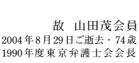
会員 高野 長幸

2004 (平成16) 年8月29日,同期で東京弁護士会会長を務めた山田茂君が,脳内出血のため都内の病院で亡くなった。74歳であった。2~3年前体調思わしくなく,業務をやめ事務所を閉じたことは聞いていたが,計報に接し永い間交わりのあった友を失って,寂しさを禁じ得ない。指名にしたがって,往時を偲びながら彼を語ることとする。

一言で云うならば、彼は私の敬愛する仲間の一人であったが、平凡な私に比べ、常に先を見越し一定の目標に向かって堅実な足取りの中にも、前進疾走する男で、私にとって畏友とも言うべき存在であった。

彼とは司法研修所〔9期〕だけでなく、大学研究室 や弁護士会会派も同じで、多くの接点があったが、特 に次のような印象や思い出が浮かぶ。

司法試験の受験勉強の時代 [1952~53 (昭和27~28) 年頃], 彼は先見の明というべきか, 「破産法」「刑





事政策」を選択科目に定めていた。彼が後年弁護士を 開業,破産管財事件を数多く取り扱う事務所を経営 し、司法研修所の刑事弁護教官となった布石が既にそ の時点で打たれていたとうけとれる。

彼と共に1957(昭和32)年4月,弁護士登録,先輩 弁護士の紹介で同じ会派に入会したのであるが,彼は 逸早く会派の活動に精出し,先輩に見倣い,いわゆる 「雑巾がけ」に汗を流していた。これは彼が学生時代弁 論部に属し政治に関心があっただけでなく,将来の弁 護士会長を目指していたのではないかと思われる。

その後、全期会代表、弁護士会副会長、弁護士会のトップに達した彼の軌跡がこれを如実に示している。彼の会長選挙の際、会派幹事長を引き受け、労を共にしたが、彼が念願を果たし、美酒を味わい喜びの固い握手を交わした感激は忘れられない。一歩先に旅立った彼を「主よ、永遠の平安へと導き給え」と祈る。